

神はヨハネに、創造の初めから患難時代の終わりまでの「登場人物」を示されました。私たちはこの七人の「登場人物」について、前回少し触れました。

A. ひとりの女 1-2節

B. 大きな赤い竜 3-4節

これらはあるものを象徴していました。「ひとりの女」はイスラエルを、「大きな赤い竜」はサタンを象徴しているということで、前回から12章の学びを始めたのです。今日は第三番目の登場人物です。

C. 男の子 5-6節

5節には「女は男の子を産んだ。…」とこのように始まっています。「男の子」、直訳するとこのことばは「男の息子」です。生まれた子どもの性別を明らかにし、それを誤ることがないように私たちにはっきりと示しているのです。では、いったい、産まれた男の子とはだれのことか？これは主イエス・キリストのことであることは明らかです。

1. 主イエスの誕生

ジョン・ワルブード師は19世紀のイギリスの神学者ヘンリー・アルフォード師のことばを引用して次のように言っています。「この男の子は主イエス・キリストであり、それ以外のものではない。」と。なぜ、私たちはこのことを見ているのかと言うと、このように理解しない人たちがいるからです。みことばを見るなら、この5節で教えられている「男の子」は紛れもなくイエス・キリストを指しています。主イエス・キリストの誕生のことです。神が人となってこの世にお見えになった。私たち罪人をその罪から、永遠の滅びから贖い出すために救い主が来てくださった。みことばの成就、そのことを私たちに改めて教えてくれるのです。

\* 「主イエス・キリストの誕生」 — 神が人となられた。これは約束の成就であった

創世記3：15「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。」、「彼は、」とあります。産まれると約束されていた救世主は男子であることはここにも記されていました。

イザヤ7：14「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」

イザヤ9：6「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」

ミカ5：2「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」

詩篇2：7「わたしは【主】の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』、「わたしの子」の「子」は「息子」ということばが使われています。「わたしの息子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」と、ここでも約束の救世主が男子だということが教えられています。

マタイの福音書の1章、聖書を初めて手にした人はここから読み始めるでしょう。カタカナの人名ばかりで疲れて来て途中で読むのを止めたということも聞きますが、そこに書かれている系図が大切であることを私たちに教えます。なぜなら、イエス・キリストは約束されていた救世主であることを明らかにするからです。確かに、彼はダビデの子孫としてこの世にお生まれになったお方であると。ですから、この系図を見るとときに私たちは、イエスはただこの世に生まれてキリスト教という宗教を始めた教祖ではなく、彼こそがこの聖書が約束していた約束の救世主であることを明らかにするのです。救世主はイスラエルからダビデの子孫としてお生まれになると。

パウロもそのことを教えています。

ローマ1：3「御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、」、パウロ自身も、救世主がダビデの子孫として生まれるということを教えます。また、同じローマ9：5には

ローマ9：5「父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上にあり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。」と記されています。「彼ら」とはイスラエル人のことです。ですから、ここで明らかにしていることは、キリスト・イエスは人としてはイスラエル人から出られたということです。

このように、今日見ている12：5のみことばは「イスラエルから救世主がこの世にお生まれになっ

た」ということを明らかにしているのです。

## 2. 主イエスの地上再臨 5節

「この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。」、これはイエス・キリストの地上での生活のことではなく、イエス・キリストがこの地上に再臨されるそのときのことを言っているのです。ここにある「牧する」ということばは、すでに見ましたが黙示録2：27にも同じことばが使われています。ただ、日本語の訳が違います。2：27には「彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。…」、「治める」と書かれています。ですから、このことばは「牧する」とも「治める」とも訳せることばで、そのような意味を持っています。

ですから、このことばが明らかにすることは、主イエス・キリストがこの地上に帰って来られたとき、地上に再臨されたときに、イエス・キリストはすべてを治められるということです。それは未来のことですが、そのことがこの黙示録で教えられているのです。

### ・主イエスは地上に約束の王国（千年王国）を築き、王として治められる。

主が地上に再臨されるときに起こることはこれだけではありません。主がすべてを治めるだけでなく、このときに「さばき」が下されます。先に見た黙示録2：27の「治める」ということばについては説明しましたが、実は、このことばには「滅ぼす、さばき」という意味が含まれています。非常にたくさんの意味をもったことばです。「治める、牧する、滅ぼす」と。12：5には「この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧する…」と書かれています。これは旧約聖書、詩篇2：9のことばの引用です。「あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」と。言われている意味が少し分かります。「鉄の杖をもって国々の民を牧する」とありましたが、ここを見ると「鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。」と、さばきのことばです。ですから、主がこの地上に帰って来られたときに、さばきがもたらされるのです。

なぜ、そのようなことが起こるのか？主が築かれる王国は、間違いなく、聖い王国であり、義なる王国です。罪がないものです。ですから、その王国が築かれる前に、すべての罪がさばかれ滅ぼされるのです。実は、黙示録19：15にもこのことが記されています。「この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。」と。こうして、主が地上に帰って来られるときに、世の罪がさばかれるということが約束されているのです。

先ほど、聖書朗読で詩篇73篇を読みましたが、人類の歴史を振り返るときに、多くの信仰者たちは「いったい、いつになったら神さま、罪をさばかれるのですか？なぜ、このようにあなたに逆らう者たちが楽しく過ごしているのですか？なぜ、あなたのさばきが彼らの上に下らないのですか？」と疑問を抱きました。その都度、神は「心配しなくてもいい。必ず、わたしの審判は下る。」と言われました。そのことがここに記されているのです。主がこの地上に帰って来られるときに、その罪を神は完全にさばかれると。なぜなら、

**\*主がこの地上に帰って来られるときに、すべての国々が主を歓迎し、喜んで従うわけではないから。** 悲しい現実、主が地上に帰って来られるときに生き残っている人々の多くが、主を喜んで迎えようとしないのです。大変な患難を通していながら、人々はまだ神に逆らい続けるのです。神のおことばを見てください。詩篇2：1、2「1なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。2地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、【主】と、主に油をそそがれた者と共に逆らう。」、神に逆らっている人たちの様子が書かれています。その様子をご覧になっておられる神はどのようなことを為さるのか？2：4に「天の御座に着いている方は笑い、主はその者どもをあざけられる。」とあります。神に対してこぶしを振り上げて神に戦いを挑もうとする人間の様子を見て神は「笑う」と言うのです。「主はその者どもをあざけられる。」と、人間はいかに愚かであるか？このみことばがまた私たちに教えてくれます。神は最後の最後まで、神に逆らい続ける人たちに救いの御手を差し伸べておられるにも拘わらず、なお神を拒み逆らい続ける者たちに対して、神はさばきを約束されそのさばきを下されます。

### \*「さばき」に関して二つのことを見てください

・この「さばき」はだれも妨害することが出来ない : 「鉄の杖」ということば、マスターズ神学校のトーマス博士は「鉄の杖（笏）は、打ち破ること、抵抗することのできないものである。」と説明しています。ですから、ここで言われていることは、神がその罪人をさばかれるときに、だれ一人としてそのさばきに対して抵抗することはできないということです。これが「鉄の杖」ということばが持っている意味だと言います。当然のことです。神がわざを為さるときはだれひとりそれに逆らうことができません。

・これは必ず起こること : 5節に「この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。」

と書かれています。「はずである」ということばを聞くと、100%起こることかどうか？と考えてしまいますが、ここでは「きっと起こる、確かに起こる」という意味をもったことばが使われています。今、話しているこの罪人へのさばきは確実に起こることだと言うのです。必ず成される神のみわざ、それがこの5節に記されているのです。

### 3. 主イエスの凱旋

5節の後半を見てください。「その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。」と続きます。ここで教えられていることは「主イエス・キリストの天への凱旋」です。そこには二つの意味があります。

#### 1) 主イエスの復活と昇天

十字架で亡くなった後、三日後に約束通り、その死から肉体をもってよみがえり、そして、40日間地上におられ、ご自分が肉体をもってよみがえったことを明らかにされ、その後、天に凱旋されました。この箇所はそのことを明らかにします。なぜなら、「引き上げられた。」という動詞は新約聖書に14回出て来ますが、それぞれに面白い日本語の訳が付いています。幾つか紹介しますから、そこを見ながら、このことばが持っている意味のニュアンスをしっかりと掴んでいただきたいのです。

・動物を奪う : 主イエスがご自分は「良い羊飼ひ」だと言われたとき、ヨハネ10:12にこのように書かれています。「牧者でなく、また、羊の所有者でない雇ひ人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪ひ、また散らすのです。」、ここでは「羊を奪ひ、」、「奪う」が「引き上げられた」の訳です。

・みことばを心から奪っていく : マタイ13章には種蒔きのことが書かれています。よく皆さんもご存じの「四つの地に蒔かれる」というたとえです。13:19に「御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。」と、ここに「引き上げる」ということばが「心に蒔かれたものを奪って行きます」と訳されています。

・ピリポが連れ去られた : イザヤ書を読んでいたエチオピアの宦官に対してピリポは神の真理を教えました。宦官はイエスを信じそこでバプテスマを受けます。その後何が起こったのか？使徒8:39「水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。」、「連れ去られた」と訳されていることばがそうです。神はピリポを連れ去った、突然、その姿が見えなくなったのです。そういうことを表わすことばです。

・教会が引き上げられる : Iテサロニケ4:17「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」、教会が、つまり、イエス・キリストを信じ救いに与っている者たちが、主が空中に再臨なさるときに、一挙にキリストのもとに「引き上げられる」と言います。その様子を表わしたことばです。

・パウロが引き上げられる : パウロは特別な経験をしました。第三の天にまで引き上げられたと告白しています。しかし、非常に謙虚であったパウロはそれが自分自身の体験であったとは明らかにしていません。しかし、だれのことかはよく分かります。IIコリント12:2「私はキリストにあるひとりの人を知っています。この人は十四年前に——肉体のままであったか、私は知りません。肉体を離れてであったか、それも知りません。神はご存じです、——第三の天にまで引き上げられました。」、ここにも「引き上げられました。」と同じことばが使われています。

ですから、黙示録12:5の「…その御座に引き上げられた。」というのは「急に運び去る、急にそこに引き上げる」ということで、まさに、そのことが主イエス・キリストに起こっているのです。復活の後、彼は父なる神の御許へと昇天して行きました。みことばを見ましょう。

使徒2:33, 34 「:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。:34 ダビデは天に上ったわけではありません。彼は自分でこう言っています。『主は私の主に言われた。』」

使徒5:31 「そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。」

使徒7:55, 56 「:55 しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、:56 こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」

ローマ8:34 「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。」

エペソ1:20 「神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、」

ヘブル8:1 「以上述べたことの要点はこうです。すなわち、私たちの大祭司は天におられる大能者の御座の

右に着座された方であり、」

ヘブル 10 : 12 「しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、」

ヘブル 12 : 2 「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」

I ペテロ 3 : 22 「キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。」

使徒 1 : 2、22 「:2 お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。」 「:22 すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちが離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともした者の中から、だれかひとりが、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」

I テモテ 3 : 16 「確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現れ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」

使徒 1 : 9 「こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなりました。」

このように、まず、「引き上げる」とはイエス・キリストが天に凱旋して行ったことを教えています。

## 2) 主イエスに栄誉が帰せられた

元来、主のものであった栄誉が主イエスご自身に帰せられた、主にお返しになったということです。どういう意味か？説明します。ピリピ 2 : 9-11 でパウロは、主イエス・キリストの従順さに対して父なる神が為されたことを記しています。「:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。:10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」、イエス・キリストが十字架にまで従順に、すべての点で完璧に父なる神のみこころに従ったので、「すべての名にまさる名を」イエスに与えたと言います。これは何を意味しているのか？イエスの従順に対して、その見返りにご褒美として神が与えたというのではなくて、主イエス・キリストは人でもあり、神でもあったゆえに、イエスが為さったことはすべての点で完璧でしたから、地上での働きを成し終えたので、父なる神はこの子なる神であるイエス・キリストに彼の栄誉をお返しになったということです。

ですから、彼が従順によって神になったのでもないし、従順によって何か特別なものを得たということでもありません。神であられた主イエスにふさわしい栄誉と称賛が彼に帰されたということです。このことを最も良く言い表わしている聖書の箇所はヘブル人への手紙 1 章です。ヘブル 1 : 3 をご覧ください。今見た、主イエスに栄誉と称賛が帰せられた、その理由がここに記されています。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、…」、イエス・キリストは確かに地上におられたときは 100% 人間だったと。しかし、それでいながら彼は 100% 神であったということです。「その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。」、イエス・キリストは地上に人としてお見えになり、人として彼はご自分のいのちを私たちのために捨ててくださり、完全な救いを備えてくださり、その救いが完成したゆえに彼は天に凱旋して父なる神の右の座に着座された。この働きを成し遂げたゆえに、イエス・キリストが救いのみわざを成し遂げられたゆえに、当然、彼には最もふさわしい称賛が与えられるのです。それは彼自身が持っておられたものです。

ジョン・マッカーサー師はこの箇所が教えることについて次のように語っています。「キリストが神のみもとに引き上げられたことは、父なる神がイエスの贖いのみわざを受け入れたことを意味している。」と。今、私たちが見て来たように、イエス・キリストが天へ凱旋して行かれた、それはイエス・キリストが地上で成された救いのみわざを父なる神が受け入れたからです。つまり、主イエス・キリストが十字架に掛かって死なれた後三日目によみがえって来られたこの復活、そして、その後 40 日間地上にいて天へ凱旋して行かれた、このすべての出来事が明らかにすることは、イエス・キリストのあの十字架のみわざはすべての罪人を赦すその力を持っていること、父なる神はイエスのあの十字架における贖いのみわざを見て「これでよし」とされたということです。この贖いゆえにイエスを信じるすべての罪人の罪を赦すと、その確約なのです。

もし、イエスが今も墓の中にいるなら、イエスの十字架は我々の罪を赦すのに十分ではないということです。神が満足されなかったということです。しかし、イエスの復活、イエスの昇天が明らかにしたのは、主イエス・キリストの十字架は私たちが救いを得るために十分であることを父なる神が証明してくださったということです。すばらしいことです。ここに希望があるのです。

ですから、この栄誉と称賛をイエスがお受けになるのは、イエスが完全な贖いを成し遂げられたからです。そして、皆さん、

## \*サタンはこの主の働きを止めることができなかった

前回見たように、サタンはありとあらゆる方法をもってイエスを殺そうとしました。イエスがあなたや私の贖いを成し遂げないように、邪魔しようとしてきました。しかし、神のご計画は成されたのです。サタンはそれに対して何もすることができなかった。そのことを考えるだけでも、私たちの心は喜びに溢れませんか？まさに、サタンに勝利された方です。何をもってしてもこの方に立ち向かうことは出来ない、この方は神です。そんな方が私たちを憐れんでくださり、私たちを愛してくださったのです。

もう一つ、この5節で見ていただきたいのは、「男の子を産んだ。」と、イエスの誕生からイエスが地上に帰って来る時まで、それがこの5節に記されていることを今見て来ましたが、ここにはイエスのこの地上での生活が一切記されていません。なぜ、ヨハネはそのことを全く記していないのか？その理由をウィリアム・バークレーがこのように説明しています。「黙示録全体を通してヨハネの興味は、パレスチナを歩みガリラヤで生活したイエスではなく、天に上げられた勝利者としてのキリストである。イエス・キリストは単に天に上げられただけでなく、神の御座にまでも引き上げられた。ヨハネが語りたいのは、地上での人間イエスの物語ではない。彼が描き出したいのは、天に上げられて、苦痛の中にある、苦難の中にある神の民を救うことが出来るキリストなのである。」と。ヨハネがどうして誕生と地上再臨しか記さなかったのか、ヨハネが明らかにしたいこの主イエス・キリストは「勝利者である方」だったからです。

先に私たちが見て来たように、イエスは救いを成し遂げられ地上に帰って来られるのです。約束されたように、この地上に彼の王国を築かれるのです。私たちはこの主とともにその場であって治めるわけです。このような主、このような神、この方が私たちの神なのです。兄弟姉妹の皆さん！この方があなたや私のために何をしてくださったのか？そのことをしっかりと覚えることが必要です。今、あなたは希望を失っていませんか？生かされていることを喜んでいますか？主によって救われ、主によって生かされていることを心から感謝していますか？ひょっとしたら、この中のだれかは希望のない日々を過ごしているかもしれません。将来に対して恐れを抱いていませんか？みことばが私たちに教えてくれることは、「どこを見ているのか！わたしを見なさい！すべての創造主であり、勝利者である神を見なさい！」です。

私たちはこのサタンに対してどうすることも出来ません。それ程私たちは弱く愚かな者です。それが証拠に、過ぎ去った一週間を振り返ってみると、様々な誘惑に対して敗北宣言です。失敗を繰り返して来ました。しかし、私の主は、あなたの主は勝利者です。サタンはこの主に打ち勝つことは出来ません。常に主は勝利者です。そんな方を信頼し、そんな方を私たちは信じて今日生きることが出来るのです。我々の主が勝利者だったら、その主によって贖われた私たちも勝利者として生きる、その責任があると思いませんか？どんな神を皆さんは明らかにしていますか？どんな神を皆さんは周りの人たちに明らかにしていますか？ 私たちの神はサタンに完璧に勝利なさった方です。サタンは敗北するのです。もうすでにしたし、これからも彼に勝利はないのです。「この方が私の神である、この方が私の主である！」と。私たちがどのように生きていくのか？私たちが覚えなければいけないことは、あなたのその生き様があなたの神を明らかにするという事です。どんな神を皆さんはあなたの周りの人々に、この世に明らかにしていますか？ 勝利者として生きる事です。全能の神を信じている者にふさわしく生きる事です。この方は言われたことを必ず実現なさる方です。

だれもこの方に逆らうことは出来ないのです。このお方が為さろうとすることをだれも邪魔することも止めることも出来ない、それが私たちの主です。しっかりこの方を見上げる事です。そして、この方の憐れみをいただいている皆さん、救いをいただいた皆さん、感謝して、このすばらしい神をあなたの歩みをもって明らかにすることです。

天に凱旋されたイエス・キリスト、サタンは彼をもう苦しめることは出来ません。地上にいたときは彼を殺そうといろいろと試みて来ましたが、すべて失敗しました。そして、天に凱旋されたイエスをサタンはもうどうすることも出来ませんか？では、サタンはどうするのか？そのことが書かれています。「女」を苦しめるのです。つまり、イスラエルを迫害し続けるのです。

## \*サタンは昇天後の主イエスを迫害できなくなったので、イスラエルへの迫害を続けた

### 4. サタンの迫害 6節

#### 1) サタンの迫害

6節を見てください。「女は荒野に逃げた。…」とあります。なぜ、彼女は荒野に逃げるのか？サタンの迫害があるからです。これまでの歴史を振り返ってみると、どうしてイスラエルだけが迫害されて来たのか、不思議に思いませんか？サタンのイスラエルに対する攻撃は継続し、その手を休めません。

(1) エジプト : モーセの時代を思い出してください。なぜ、エジプトの王パロはイスラエル人に苦役を課したのか？彼らを酷く苦しめた理由は何だったか？みことばが明らかにするのは「恐れ」です。

それでパウロは彼らを幾倍も苦しめようとしたのです。そのことは出エジプト記 1 : 13, 14 に書かれています。「:13 それでエジプトはイスラエル人に過酷な労働を課し、:14 粘土やれんがの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、すべて、彼らに課する過酷な労働で、彼らの生活を苦しめた。」と。

(2) ペルシャ : エステル書を見ると、特に3章から9章を読むとその様子が詳しく書かれています。エステル書 3 : 12, 13 「:12 そこで、第一の月の十三日に、王の書記官が召集され、ハマンが、王の太守や、各州を治めている総督や、各民族の首長たちに命じたことが全部、各州にはその文字で、各民族にはそのことばでしるされた。それは、アハシュエロスの名で書かれ、王の指輪で印が押された。」、ペルシャが支配しているすべての国々、その人々が理解できるように理解することばで書かれていた。王様からの命令です。どんな命令だったのか? 「:13 書簡は急使によって王のすべての州へ送られた。それには、第十二の月、すなわちアダルの月の十三日の一日のうちに、若い者も年寄りも、子どもも女も、すべてのユダヤ人を根絶やしにし、殺害し、滅ぼし、彼らの家財をかすめ奪えとあった。」と。ユダヤ人を全部殺せという命令です、この命令がペルシャの王から発せられたのです。サタンは巧妙です。神に選ばれたイスラエルの民をこうして滅ぼそうとするのです。サタンは巧妙に神の計画を台無しにしようとするのです。この後、このような陰謀を企てたハマンはそれを達成することが出来たのか? ご存じのように、ハマン自身が殺されます。サタンのその計画に対して神はご自身の計画を為されたのです。ハマンは彼自身が備えた木にかけられて、彼は処刑されていくのです。

(3) ローマ : ローマもイスラエル人を苦しめました。多神教のローマに対して不満を持っていたユダヤ人は、第一次ユダヤ戦争、第二次ユダヤ戦争という二つの大きな反乱を起こしたのです。その結果、彼らはローマによって滅ぼされ、彼らは完全な離散民族となりました。国をもたない民となったわけです。私たちもそのことをよく知っています。

恐らく、ヨハネはこの記事を記したときに、彼はこのような過去の歴史の出来事をよく知っていたのでしょう。イスラエル民族がどれ程の苦しみに遭って来たのか? でも、イスラエル民族の苦しみはこれで終わったのではありません。

(4) 19世紀以降 : 特に、19世紀以降、同じようなことが起こっています。その一つは、トグルムという、これはロシア語で「破滅、破壊」を意味することばですが、19世紀後半から20世紀初頭にかけてロシアを中心に行われたユダヤ人の虐殺のことを言います。大変多くのユダヤ人たちが殺されていくのです。そして、私たちもよく覚えているあのナチスによるホロコースト、600万人のユダヤ人が殺されたことです。

(5) 患難時代 : 皆さん、気付かれるでしょうか? こうしてユダヤ人たちは大変な迫害を経験し続けています。サタンは彼らを放っておかないのです。彼らに対する迫害を継続して行くのです。そして、今私たちが見ているこの6節のところ「女は荒野に逃げた。」とありますが、これは患難時代のことです。これから先のことです。今、私たちは「歴史的な事実」を見て来ました。この12章6節で教える迫害はこれから起こる迫害です。6節には「千二百六十日の間」とあります。彼らが迫害を経験するその期間までが書かれているのです。千二百六十日、つまり、3年半です。患難時代の後半3年半を指しているのです。思い出してください。患難時代の初めに、偽キリストはイスラエルに二つの約束を与えました。一つは「平和」を約束しました、もう一つは「いけにえをささげること」を許可しました。それを3年半、ちょうど、中間のときに、この偽キリストはその約束を破棄します。そして、イスラエルに対する迫害が始まるのです。

## 2) 神の守り

今、詳しく見ることはできませんが、そのことがマタイの福音書 24章 15-28節に、また、マルコの福音書 13章 14-22節に記されています。一部分だけ読みます。マタイ 24 : 15 「:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。) :16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。」「『荒らす憎むべき者』とは「偽キリスト」のこと、これは患難時代の後半3年半のことです。この偽キリストが自分を神として自分を崇拝するように強いるのです。その時に「逃げなさい」とそのように主ご自身がおっしゃった、そのことが書かれているのです。

6節には「女は荒野に逃げた。」とあります。この荒野がどこを指しているのかよく分かりません。というのは、みことばは明確にその場所を記していないからです。ただ、ヘンリー・モーリス師は「これは昔のモアブ、アモン、エドムであろう。そして、聖書はそのことを暗示していた。」と言われます。というのは、実は、ダニエル書 11章 40-41節に、今挙げた国の名前が出て来るからです。「:40 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く。:41 彼は麗しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。」、このように書かれています。

(参考に、次の箇所もご覧ください。ダニエル書 11:36-45 「:36 この王は、思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高め、大いなるものとし、神の神に向かってあきれ果てるようなことを語り、憤りが終わるまで栄える。定められていることが、なされるからである。:37 彼は、先祖の神々を心にかけず、女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけない。すべてにまさって自分を大きいものとするからだ。:38 その代わりに、彼はとりでの神をあがめ、金、銀、宝石、宝物で、彼の先祖たちの知らなかった神をあがめる。:39 彼は外国の神の助けによって、城壁のあるとりでを取り、彼が認める者には、榮譽を増し加え、多くのものを治めさせ、代価として国土を分け与える。:40 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く。:41 彼は美しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。:42 彼は国々に手を伸ばし、エジプトの国ものがれることはない。:43 彼は金銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を手に入れ、ルブ人とクシュ人が彼につき従う。:44 しかし、東と北からの知らせが彼を脅かす。彼は、多くのものを絶滅しようとして、激しく怒って出て行く。:45 彼は、海と聖なる美しい山との間に、本営の天幕を張る。しかし、ついに彼の終わりが来て、彼を助ける者はひとりもない。」、イザヤ書 16:1-5 「:1 子羊を、この国の支配者に送れ。セラから荒野を経てシオンの娘の山に。:2 モアブの娘たちはアルノンの渡し場で、逃げ惑う鳥、投げ出された巣のようになる。:3 助言を与え、事を決めよ。昼のさなかにも、あなたの影を夜のようにせよ。散らされた者をかくまい、のがれて来る者を渡すな。:4 あなたの中に、モアブの散らされた者を宿らせ、荒らす者からのがれて来る者の隠れ家となれ。しいたげる者が死に、破壊も終わり、踏みつける者が地から消えうせるとき、:5 一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかに行う者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。」)

この国々はどこにあるのか？今の死海を描いてください。死海の南東部です。その地域に、恐らく、信仰を持っているイスラエル人たちが3年半の間に逃げるのでしょうか。

しかも、すごいことは、その3年半の間、神が彼らを養うことが約束されています。神は放っておかないのです。愛する者たちをちゃんと守られるのです。神はこれまでもイスラエルを守って来られました。この患難時代の後半に神は特にこの救いに与っているイスラエル人を守られるのです。そのときに何が起こるのか？もうすでに見て来たように、イスラエル、エルサレムにあって二人の証人たちが主イエス・キリストの救いのメッセージを語り続けるのです。彼らは守られます。そして、神は彼らを、多くの救いに与っているイスラエル人を、荒野に逃げるのを守ってくださるのです。

6節はこう続きます。「そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。」と。このメッセージはその当時の迫害下にあったクリスチャンたちをどれ程励ましたことでしょうか。どんな時代にあっても神はご自分の愛する者たちを守ってくれるのです。その約束はあなたに対しても与えられています。神はちゃんとあなたを守ってくださる。あなた以上にあなたの必要をご存じの神はちゃんとその必要を与えてくださり、あなたをしっかりと立たせてくださるのです。大切なのは、その方を見上げてその方を信頼してその方に従うことです。

その主から目を逸らしていませんか？主が約束されていることを疑っていませんか？「確かに神さまはそうおっしゃっているけれど、私は例外だ。私のケースが違う！」と、主の約束を疑っていませんか？もしそうなら、その罪を悔い改めることです。主はちゃんとあなたを守ってくださる。この患難時代の終わりにあってもご自分の民を守られた神はあなたを守ってくださるのです。その約束を信じて、その約束に立って、今日をしっかりと生きていくことです。

神が私とともにいらっしゃること、しかも、この方は全能であり勝利者である神であることを忘れることなく、どうぞ、そのように歩み続けてください。救われたことを、勝利を与えられたことを、そして、この全能の神が私を守り続けてくださっていることを喜びながら、この神のために、ぜひ、この一週間歩み続けてください。

**\*サタンはどんなに努力しようと、主に勝利することは絶対にない！**

《考えましょう》

1. 「男の子」(5節)が主イエスのことである理由を記してください。
2. 主が地上に再臨される時に何が起こるのでしょうか？
3. 「主イエスの復活と昇天」がどうして我々の希望なのでしょう？  
その理由を説明してください。
4. あなたが教えられたことを信仰の友と分かち合い、実践のために祈り合ってください。